

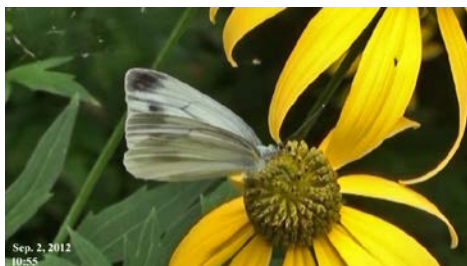
つい最近まで、スジグロシロチョウは近縁種のエゾスジグロシロチョウとの2種だけで、北海道以外での混生地では、主に翅表の黒点が丸くて翅脈へと流れない個体がエゾだと判別してきた。ところが、DNA解析という手法で本州産エゾと北海道産エゾとは独立した別種扱いが望ましいとなって、本州産エゾはヤマトと命名区別されるようになった。♂に限れば「発香鱗」の観察で明確に区別ができるというが、素人にとって簡単な話ではないし、北海道でも石狩平野以西に産する個体はヤマトスジグロシロチョウだそうで実にややこしい。

スジグロシロチョウは加古川市にも分布するが生息は山間部に限られ、本種が確実に生息しているかどうかよく分からない。

2012年9月1日 伊那市喬木：  
しらびそ高原から諏訪湖へと走る  
道中、路傍のムラサキツユクサに  
執着するヤマトスジグロシロチョ  
ウと遊ぶ。

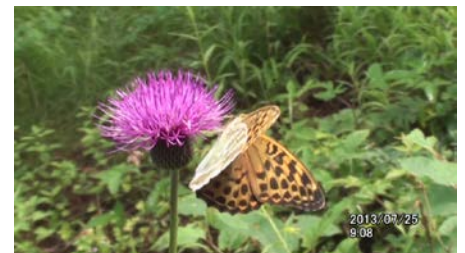


2012年9月2日：八千穂高原：蓼科方面へともどろろと進む路傍に黄色い花が一団となって  
咲くコーナーが目に入り、自然園でクジャクチョウがみられるのであれば同標高（約 1600m）



のここらでも期待できるはず、と立ち寄ってみる。進入禁止の林道入口部分で、崖沿いにオオハンゴンソウが群生している。本命のクジャクチョウが現れるまで、辺りをフワフワと飛び交うヤマトスジグロシロチョウを追い回しても撮影モデルとなってくれない。ようやく花の蜜を求める個体がいてくれて撮影。

2013年7月25日 女神湖湖  
畔：ホテル・アンビエント蓼科  
から出発までの時間、チョウを  
探してみる。まだ陽射しがゆる  
い林内へと入るとノアザミの  
蜜に夢中になっているヤマト



スジグロシロチョウとミドリヒョウモンがいる。ヒョウモン類は吸蜜しながら動き回るが、ヤマトスジグロシロチョウは直立不動という姿勢を保ち、実に行儀がいい。